

JATA アウトバウンド促進協議会 大学の学園祭に参加！

JATA アウトバウンド促進協議会（欧州部会）は、10月14日、15日に開催された、実践女子大学 渋谷キャンパスの学園祭『常磐祭』に参加し、9カ国の大使館・観光局による展示と資料配布及び両日15のセミナーを実施しました。

セミナーの中で、欧州部会長 古木 康太郎氏の「旅の魅力」講演について、10月23日の【交通新聞】の記事に取り上げていただいています。

2017年（平成29年）10月23日 月曜日

交通新聞

記事より

学生に旅の魅力語る

JATAアウトバウンド促進協議会・古木部会長 大学の学園祭に参加

日本旅行業協会（JATA）のアウトバウンド促進協議会欧州部会は、14、15日に開かれた実践女子大学渋谷キャンパスの学園祭「常磐祭」に参加、古木康太郎同部会長（グローバルユースビュ



ロー会長）が旅の魅力を語り掛けた。同大学で旅行企画の授業を担当する、JATA海外旅行推進部の保坂明彦副部長の呼び掛けで実現。古木部会長は、「1964年（昭和39年）まで、日本人は自由に海外旅行ができなかった。渡航自由化で、インドに行ってみようと考えたのが私が旅行会社を立ち上げたきっかけ」などと自らの経験を披露。

旅行する意義については、JATAが提唱する「旅育」のフレーズに集約。「学生の皆さんは社会に出て、いろいろな困難に直面するだろう。それを乗り切る答えが、旅

などに説明する。学生時代に経験してほしいのは、バックパッカーとしてユースホステルを泊まり歩くような自由旅行。旅はこれ以上ない人生経験を与えてくれる」と語った。

さらに、旅行業界の人材にも言及。「旅行会社に男女差はなく、女性も旅行企画や添乗で活躍する。国内でも海外でも、学生時代に旅の楽しさを知り、ぜひ旅行業界に入って一緒に働こう」と呼び掛けた。